

# 『師走便り』



後志教育研修センター  
所長 長谷川 誠

令和元年度の研修講座事業は、30講座が予定通り開講され、公開講義の受講者と授業公開の参加者を含むと、受講者の総数が760人を数えました。これは小樽後志の教職員数の54.7%に当たり、昨年度の49.8%を超える数値となりました。

今年度の研修講座の特徴の1つ目として、受講後のアンケート記述から、受講者の研修講座に臨む姿勢が非常に前向きであったことがわかります。参加して勉強になったという声が数多くあり、教職員の意識の高まりが強く感じられました。特徴の2つ目には、講師陣の意欲的な姿勢があげられます。自分の実践を受講者に伝わるように、講義・演習を行っていたのが非常に印象的でありました。

研修内容では、①演習をできるだけ取り入れ、参加型の研修としたこと。②ワークショップ型研究協議を取り入れ、少人数で充実した交流を図ったことなど、工夫点がたくさんありました。また、昨年度の授業公開13本に対して、今年度の授業公開は17本と数が増加したことも成果の一つと言えます。外部講師に関しては、昨年度13名に対し今年度は18名を招聘し公開講義として位置づけ、講座内容の充実を図ってまいりました。

現在、新年度に向けての研修講座講師の選定に入っております。教育団体や校長・教頭先生、また所員からの推薦などを基に作業を行っていますが、多くの先生方が快く承諾して頂いております。本当に感謝申し上げます。

最後になりますが、令和2年度第53回後志管内教職員夏季研修会(後志教育講演会)が、8月4日(火)、倶知安町第一会館を会場にして、『義男の空』の主人公である高橋義男氏(とまこまい脳神経外科副院長)をお迎えして開催することで進んでおります。是非、この機会に「人々がお互いに支え合う、本来あるべき社会を実現していくんだ。それが『人間の証明』だ」と訴える高橋先生の素顔に触れて見ませんか。